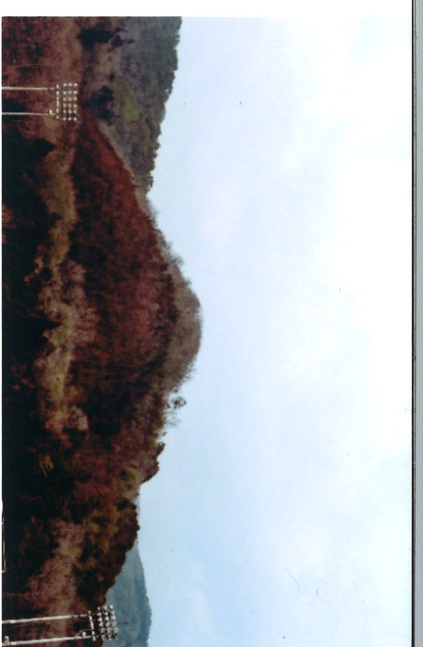


備中佐井田城址



佐井田城は、鎌倉時代の初期、文治3年(1187年)に山田重英が築城したといわれ、慶長5年(1600年)になるまで412年間存続した。最初は横内山と佐井田山の頂上付近を削って平坦にして要害を設け、年代を経て、綿密な縄張りにより水手、虎口、堀切、土塁、郭等を備えていった。永正14年(1517年)に植木藤資が城主になったが、天文2年(1533年)には兄 庄為資が松山城主となり、備中に覇を唱える藤資はその一門として佐井田城を与えられ、再城主として勢力をふるった。

永禄年間に植木秀長が曲輪の改修を行い、秀資が堀切等を改修、天正7年(1579年)、備中兵乱にあたり東郭(かさ丸)などを改修した。

佐井田城は、佐井田山の尾根を利用し、中央部に主郭を構築し、東郭(かさ丸)、西郭を配し、かさ丸を防衛の主要陣地として辰巳櫓などから弓、鉄砲で側面攻撃ができるように工夫されている。飲料水も城内と横内山の麓に井戸を、その他、谷間を堰き止めた「要害の池」により防備を固めていた。

佐井田城は難攻不落の城といわれ、城そのものは大きくないものの、東西南北交通の要衝にあり、備中南部の猿掛城、中部の松山城とともに「備中3名城」といわれ、事実この城では大きな合戦が5回ほど行われた。そのうち勝ち戦が3回、負け戦が2回ある。

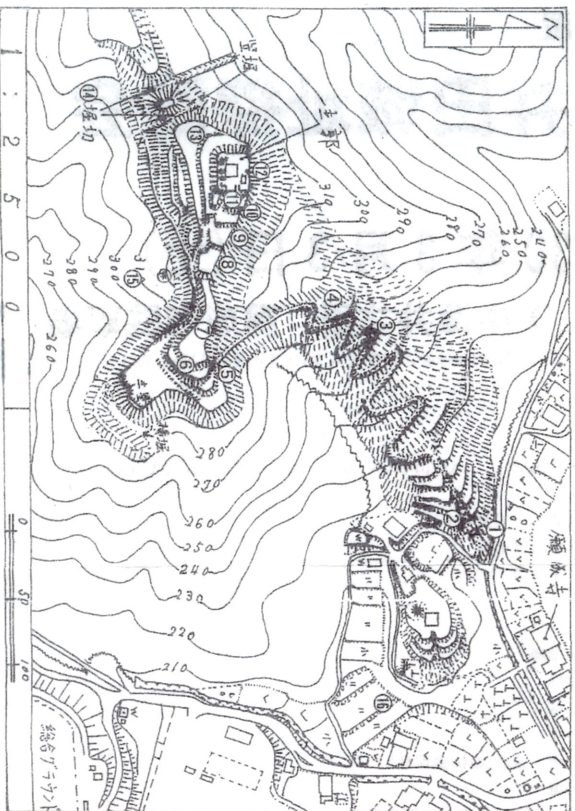
永禄12年(1569年)11月、毛利元清、三村元親の大軍に宇喜多直家の援軍により植木秀長が勝利した。

元龜元年(1570年)尼子、宇喜多の連合軍に植木秀資が人質を出して降参した。

元龜2年(1571年)春、毛利元清、三村元親の軍勢を庄勝資らが援軍し植木秀資が勝利した。

元龜2年9月、毛利元清、三村元親の軍勢を宇喜多直家の援軍により植木秀資が勝利した。

天正2年(1574年)12月、備中兵乱の時に三村方の将として城を預かっていた三村左京が、毛利方の庄勝資、植木秀資らに敗れた。



佐井田城縄張図



佐井田城登城口



途中の稻荷神社鳥居



中腹の番所址



虎口



虎口から東郭(かさ丸)を望む



東郭(かさ丸)跡



辰巳櫓跡



三の壇の稻荷神社鳥居



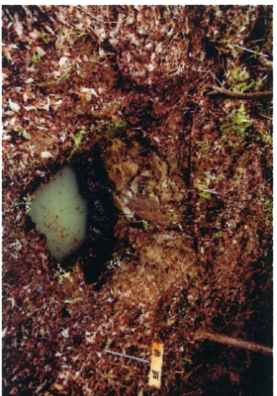
主郭(本丸)後の堀切



城の主郭(本丸)址 現在では稻荷神社が祀られている



主郭まで1丁の道標



城郭の南斜面にある井戸



虎口付近からの眺望

備中佐井田城址の保存整備への取り組み

地域の歴史遺産を保存継承するため、中津井地区の地域自主組織「せんだんの会」では、「遺産保存部」を組織し、平成30年度から城郭区域の木の伐採、登城路、看板や案内板の整備のほか、入り口に駐車場を設け、路面の整備や休憩施設の設置等に取り組んでいる。

